

いもう 葦毛通信



マキノスミレ

2021年4月15日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 109

1、2020年度(令和2年)葦毛湿原の動物調査

昨年に引き続き、2021年3月末までの一年間、二の沢で自動撮影カメラによる動物の定点撮影を行いました。2020年度の撮影回数は延べ45回でした。2019年度の撮影回数は延べ85回でしたので、撮影回数は約半分に減りました。

二の沢での撮影は2016年から開始し、5年間撮影を行っています(右表)。2016年は二の沢の木を伐採した直後で裸地に近い状態で147回撮影されましたが、切り株から萌芽が伸び、草が増えて見通しが利かなくなると動物の撮影回数は減っていき、2018年には

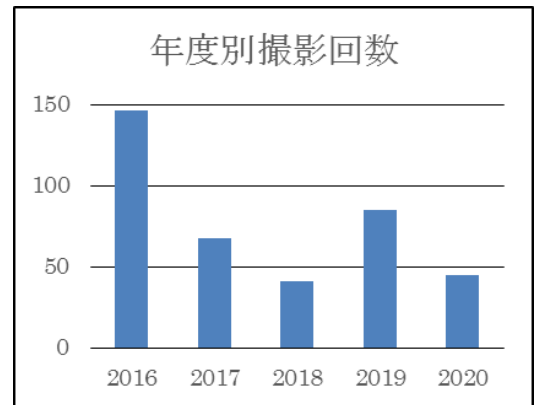


表1 種別撮影回数一覧表

番号	種名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ニホンイノシシ	8					4			3		1		
2	ニホンノウサギ	14	5	2	1	5								1
3	ホンドタヌキ	5				1	3						1	
4	ホンドキツネ	5	2				2				1			
5	ハクビシン	0												
6	ニホンイタチ	1												1
7	ホンドテン	3									1	1	1	
8	ニホンリス	0												
9	ニホンアナグマ	2						2						
10	ヤマシギ	1								1				
11	コジュケイ	0												
12	ノネコ	0												
13	ニホンカモシカ	6					1	2	3					
14	ハシボソガラス	0												
15	ハシブトガラス	0												
16	不明	0												
	合計	45	7	2	1	6	10	4	3	4	2	2	2	2

41回になりました。この年の冬に抜根作業を行って再度裸地化したところ、85回まで増えましたが、2020年には45回に半減しました。現在はニガイチゴの大きな群落が出現し見通しが悪くなっています。

木の伐採と抜根による裸地化を2回行ったことになりませんが、前年よりも半減するという同じようなペースで撮影回数が減っています。今年にはさらに減るのか、現状維持程度になるのかを確認したいと思います。

1) 調査方法

2020年度は、二の沢のT地点で引き続き撮影を継続しました。撮影は、昼間はカラー、

夜間はモノクロになっています。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためにはフラッシュが必要になるので、動物を驚かさないようにして継続して調査をするためです。

動物の撮影は葦毛湿原の植生への影響、アライグマ等の外来種の確認のために継続して行っています。

2) 調査結果

2020年度は延べ45回撮影されました。内訳は表1、図1・2の通りです。前年度の2019年度(葦毛通信 No. 94)と比較して撮影回数は約半分に減りました。全体の傾向としては昨年と比較してニホンノウサギの撮影回数が約1/4に減り、動物全体の割合では2018年度に近い状態になりました。

2020年度の月別撮影回数は、4月と8月にピークがあり、後半は平均化しています。これは撮影回数も41回である2018年度と似た傾向にあります。

撮影された動物の種類で最も多いのは、ニホンノウサギで14回(31%)撮影されました。昨年は50回(59%)だったので、回数は約1/4、割合は約1/2に減りました。ニホンイノシシは8回(18%)で昨年の9回(11%)から回数はほぼ同じ、割合は2倍近くに増えました。この2種類で全体の約50%になりました。

これ以外は、ニホンカモシカ6回(13%)、ホンドタヌキ・ホンドキツネ5回(11%)、ホンドテン3回(7%)、ニホンアナグマ2回(4%)、ニホンイタチ・ヤマシギ1回(2%)となっています。

撮影回数が昨年よりも約半分に減ったのは草木が伸びて見通しが悪くなったためと考えられます。ニホンカモシカは昨年より撮影回数が増えて2018年度と同じ様な状況になりました。日中でも湿原内に出没しており湿原の見学者がその姿を見る機会も増えています。ただし、今のところニホンカモシカによる深

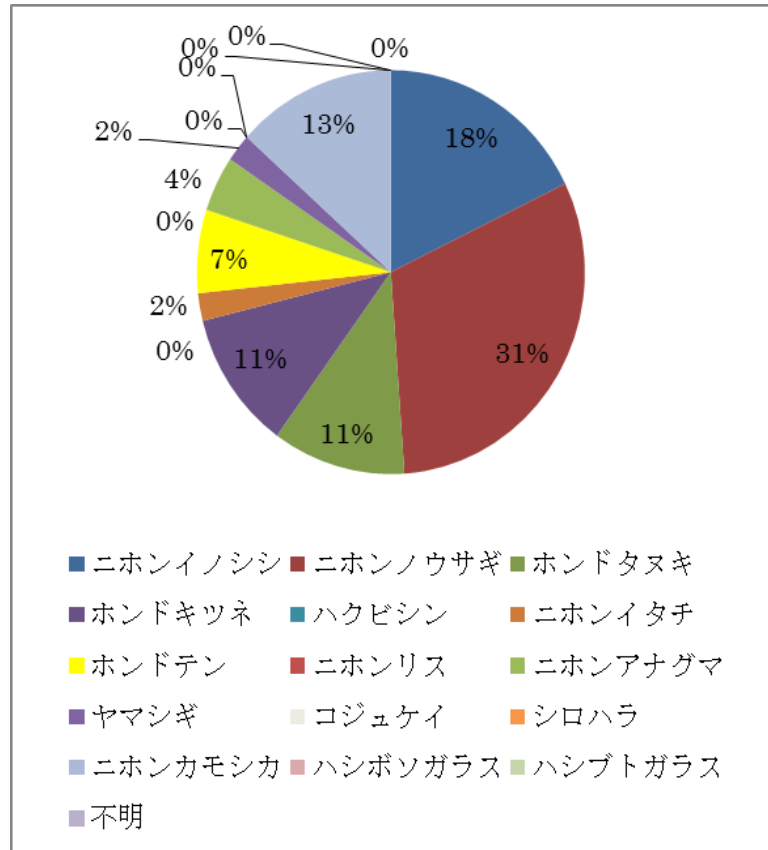


図1 種別撮影回数割合

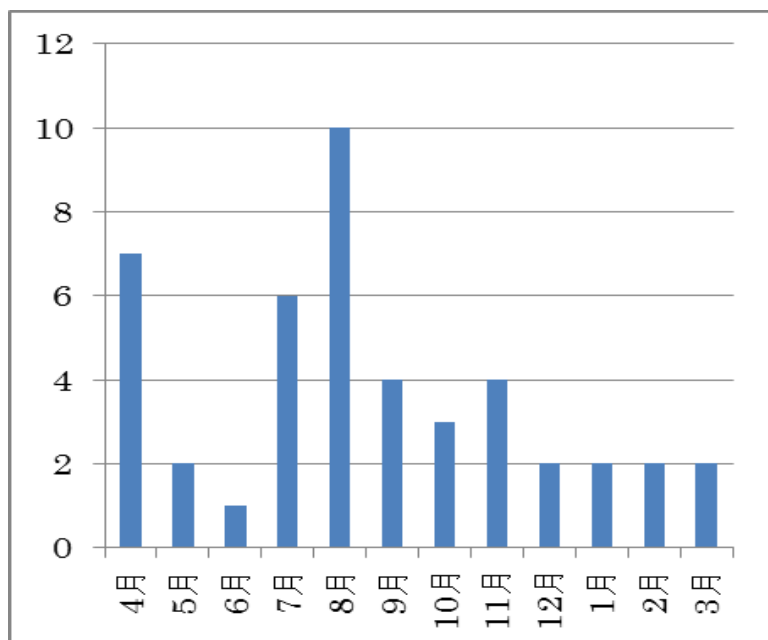


図2 月別撮影回数

刻な食害は見られません。2020年度は総撮影回数、月別撮影回数、撮影された動物の種類等多くの点で2018年度との類似が見られました。

以下の写真は2020年度に撮影された主な動物です。ニホンノウサギは5～7月に集中して撮影されました。撮影回数が多い年はほぼ一年を通して撮影されていますが、撮影回数が少なく撮影傾向も類似した2018年度は4～9月の前半に集中して撮影され、同じ傾向を示しています。



ニホンノウサギ (2020年4月19日)



ニホンノウサギ (2021年3月8日)



ニホンイノシシ(♀) (2020年8月17日)



ニホンカモシカ (2020年10月27日)



ホンドタヌキ (2021年2月13日)



ニホンアナグマ (2020年9月2日)

イノシシは親子連れが2回写っており、その他も子供が2回写っていました。確認できるのは親子連れの場合が多いようです。

ニホンカモシカは6回撮影され、8～10月の3か月に集中していました。いずれも夜間の撮影でした。

ホンダタヌキとホンダキツネは5回撮影されました。昨年の報告ではタヌキとキツネの撮影回数は2016年度(12:1)、2017年度(12:1)、2018年度(0:4)、2019年度(9:1)となっており、タヌキが多いとキツネが少なく、キツネが多いとタヌキが少ないと報告しました。しかし、今年は5回で同数になりましたので、相関関係はなく偶然だったのかもしれない。

ホンダテンは12月～2月に3回撮影されました。他の動物については撮影回数も少なく一定の傾向は見られません。



冬毛のホンダキツネ (2020年4月5日)



夏毛のホンダキツネ (2020年8月1日)



ニホンイタチ (2021年3月26日)



ヤマシギ (2020年11月7日)

「日本自然保護大賞2021」受賞記念シンポジウム

YouTubeでオンライン配信中

2021年3月13日(土)14:00～17:00に、日本自然保護大賞2021受賞記念シンポジウムが開催され、現在YouTubeでオンライン配信されています。**葦毛湿原大規模植生回復作業**の活動を発表しました。見逃した方は、ぜひご覧ください。

https://youtu.be/FRyD_SxrOus